

研究開発ビジョン最終とりまとめに向けた検討体制等について

参考資料 1
第66回航空科学技術委員会
(R2.9.16)資料66-2-1

第64回航空科学技術委員会
(R2.1.20)資料64-2-1より抜粋

ビジョン最終とりまとめに向けた論点(案)

【論点 1】最終とりまとめの形式について

- これまでの方針（研究開発の推進方策（2012, 2015改訂）及び研究開発計画（2017））に相当する粒度の内容を、次期研究開発計画の形式に整合する形式で中間とりまとめに追記（形式は今後検討）することとしてはどうか。

【論点 2】追記部分の内容を検討する方向性（ポイント）

- J A X A の中長期計画の見直しに活用することも考慮し、構成は現行の研究開発計画を維持することを基本に、中間とりまとめでの3つの方向性の内容を盛り込むことを検討の出発点としてはどうか。
- 次期研究開発計画においても現行の研究開発計画の「留意すべき推進方策」に相当する項目が設けられることを見越し、大型試験設備の整備などのシステムに関する内容も盛り込むこととしてはどうか。

【論点 3】最終とりまとめに向けた検討体制について

- 最終とりまとめに向けた検討では、これまでの検討を踏まえつつ具体個別の研究開発の取組についての詳細な検討も行う必要がある。そのため、航空科学技術に関する研究開発の推進のためのロードマップの検討（2012～2013）と同様に、研究開発実施者に近い立場の者に原案の検討を依頼することとしてはどうか。（航空科学技術委員会では、その成果を更に検討し、必要に応じて原案作成側にフィードバックする役割を担う。）

※第64回で頂いたコメント

- ・「現状維持だけでなく既存事業を差し引くことも考えるべき」（武市委員）
- ・「メーカ、ユーザ（エアライン）の意見も聞くべき」（李家主査、武市委員）

【論点 4】最終とりまとめに向けた検討スケジュールについて

- 2020年夏までを目途に上記の体制の構築を進めるとともに、2021年度内に航空科学技術委員会にて最終とりまとめが行えるよう適切な時期に航空科学技術委員会へ報告を行うようにすることとしてはどうか。

【論点 5】更なる検討を進めるにあたっての留意点について

- 今後内閣府を中心に検討が進められる第 6 期科学技術基本計画等省内外での関連する取組については、航空科学技術委員会事務局が注視し、最終とりまとめに向けた検討に適切にフィードバックすること
- 2021年度以降の予算要求等では、その時点での検討状況に応じて先見性を持って適切に対応すること

最終とりまとめに向けた検討の進め方について（案）

■ 航空科学技術分野における研究開発の中心的な実施機関であるJAXAに個別具体の研究開発課題とその取組方策の検討を依頼する。

- 中間とりまとめにおける「デザイン・シナリオを実現する研究開発、基盤技術整備の方向性」も踏まえた研究開発課題の具体化
- 産業界（メーカー）、学界、関係各省庁等の学識経験者、企業実務経験者（エアライン）、その他有識者の視点も十分に活用
- 航空科学技術員会は検討状況を聴取し必要に応じてJAXAに助言

■ JAXAからの最終報告を受けて、航空科学技術員会で研究開発ビジョンへの反映を行う。

- 中間とりまとめにおける方向性と最新の社会情勢を踏まえ詳細に検討
- これまでの方針（研究開発の推進方策（2012, 2015改訂）及び研究開発計画（2017））に相当する粒度の内容を、次期研究開発計画の形式に整合する形式で中間とりまとめに追記

最終とりまとめに向けた検討スケジュール（案）

	令和2年度							令和3年度															
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
航空委																							
	第66回:検討体制について					第68回:中間報告の確認						第69回:JAXA最終報告を踏まえた 最終とりまとめの検討		第71回:研究開発ビジョン 最終とりまとめ策定				第72回:次期研究開発計画策定					
JAXA	研究領域・計画素案検討					研究環境及び指摘踏まえた追加の議論																	
CSTI ・ 計評									第6期科学技術基本計画														
																		第11期・計评分科会					

最終とりまとめの形式及び追記部分の内容を検討する方向性（案）

【JAXA報告書の項目（案）】

1. はじめに

2. 航空分野の現状

3. JAXAが今後10年を見据え取り組むべき研究領域

中間取りまとめを踏まえつつ、コロナの観点も考慮した未来社会像及び研究領域を記載

4. 直近5年の具体的な研究計画について

JAXA研究開発課題の研究計画

デザイン・シナリオを実現する研究開発、基盤技術整備の方向性を踏まえつつ、上記の研究領域に対応する直近5年の研究計画を記載

5. 最適な研究実施体制及び研究環境について

・ 中間取りまとめを踏まえつつ、コロナの観点も考慮した研究人材、大型実験設備等の検討結果を記載

5. おわりに

【最終とりまとめの項目（案）】

1. はじめに

2. 我が国の航空分野の現状

(追記) With/afterコロナの観点

3. 航空科学技術分野における未来社会デザイン・シナリオの実現方策

3. 1 未来社会デザインとシナリオ

①既存形態での航空輸送・航空機利用の発展

(追記) With/afterコロナの観点

②次世代モビリティ・システムによる更なる空の利用

(追記) With/afterコロナの観点

3. 2 デザイン・シナリオを実現する研究開発、基盤技術整備の方向性

①我が国の優位技術を考慮した研究開発戦略

(追記) With/afterコロナの観点

②異分野連携も活用した革新技術の創出

(追記) With/afterコロナの観点

③出口を見据えた産業界との連携

(追記) With/afterコロナの観点

4. 実現方策を支えるシステム改革

4. 1 研究人材の改革

(追記) With/afterコロナの観点

4. 2 研究資金の改革

4. 3 研究環境の改革（大型試験設備の整備）

(追記) With/afterコロナの観点

4. 4 研究開発実施組織の改革

5. 実現に向けた具体個別の研究開発の取組

・ JAXA報告書を参考に、個別の研究開発課題を記載

6. おわりに